

ヒラメの新規加入状況 ～ 平成29年生まれの動向 ～

水産試験場では、ヒラメ稚魚の発生状況を把握するため、毎月1回、銚田市玉田沖の5定点(距岸0.25～2.0マイル、水深約6～20m)において調査を行っています。調査は、水工研Ⅱ型ソリネット(開口部2.0m×0.2m)と呼ばれる漁具を各地点10分間曳網して行い、採集されたヒラメ稚魚の尾数を1000m²当たりで換算しました。

稚魚の発生時期は早まる傾向

茨城県沿岸のヒラメ稚魚は、平成24年までは8月以降に採取され8・9月がピークとなっていました。平成25年以降はピークが約1ヶ月早く(図1)、産卵が早まっているものと考えられます。特に平成29年は5月から稚魚が採取され、7月にピークとなり、8月以降は少なくなっています。

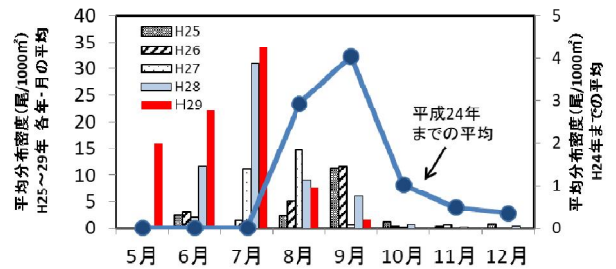


図1 月別のヒラメ稚魚の分布密度

平成29年生まれ稚魚の発生量は高水準

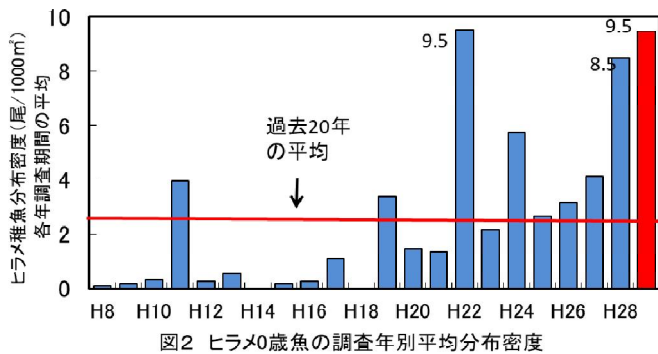


図2 ヒラメ0歳魚の調査年別平均分布密度

図2にヒラメ稚魚の平均分布密度の推移を示しました。平成29年は9.5尾/1000m²となり、過去の平均(H9～28:2.4尾)に比べて多く、最近の漁獲量増加のもととなった平成22年産と同じ高水準となっています。平成22年のように東北海域全体で稚魚が多くみられると、大幅な資源増加につながるのでは他県の状況にも注意が必要です(平成29年は宮城県でも稚魚が多いようです(東北水研からの情報))。

ヒラメの漁獲量は減少傾向、今後に期待

平成29年のヒラメの漁獲量は333トン(属地水揚げ水試速報値)となり、前年443トンを下回りました(図3)。稚魚の発生量は高い水準を維持していますが、漁獲量は減少傾向にあります。今後、成長した稚魚がどの程度漁業に加入してくるか、市場での水揚げ状況に注目していきたいと思えます。

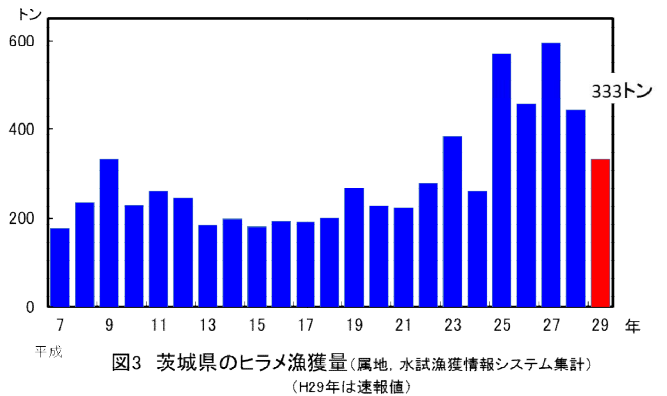


図3 茨城県のヒラメ漁獲量(属地、水試漁獲情報システム集計)
(H29年は速報値)

(定着性資源部 山崎 幸夫)

【次回予告】H30.1.23発行の「水産の窓」は「1月の海況と今後の予測」を予定しています。